

横浜市河川水辺環境の保全・創出に 関する指針策定の基本的な考え方 について

(1) 河川等の役割

- 河川は、大雨時に下水道で集めた雨水を、安全かつ速やかに流す「都市の雨水排水の骨格」として、重要な役割を担っている。
- 河川やせせらぎ緑道などの河川水辺拠点は、都市に残された貴重な自然環境として日々の市民生活に潤いと安らぎをもたらすだけでなく、地域コミュニティの場や生物の生息・生育・繁殖の場としても大切な役割を果たしている。



大雨時の河川の様子
(旭区)



親水拠点
(瀬谷区)



親水拠点での地域の夏祭り
(泉区)

(2) 河川等を取り巻く環境の変化

- 近年の気候変動による水災害の激甚化・頻発化を踏まえ、河川の治水安全度の更なる向上を図っていく必要があり、大雨時における河川の流下機能を増強させるため、現況の河川水辺環境に手を加える必要があること
- 一部の河川水辺拠点では、老朽化の進行により、部分的に利用を制限している箇所があること
- ネイチャーポジティブやWell-Beingの実現など河川水辺拠点に期待される役割が増えていること



令和9年3月 GREEN×EXPO 2027の開催

市民生活の「質」の向上と「環境との共生」の実現を目指し、これまで以上に良好な河川水辺環境を保全・創出していくため、目指すべき方向性を取りまとめた「**横浜市河川水辺環境の保全・創出に関する指針**」を策定

横浜市河川水辺環境の保全・創出に関する指針

本市が実施する全ての河川事業に適用



具体例

河川（親水拠点）
環境整備計画

小川アメニティ
環境整備計画

せせらぎ緑道
環境整備計画



地域ニーズ、治水安全度の向上、老朽化の進行

4 指針に記載する主な内容

(1) これまでの取組

河川や水路等を都市に残る貴重な空間と捉え、昭和50年代から行ってきた河川水辺環境に関する取組を体系化

- 地域のシンボルとなる「ふるさとの川づくり」や
全ての人に優しい「まほろばの川づくり」
- 水辺に親しむことができる空間づくり
- 瀬や淵など多様な河川環境の回復
- 魚類の遡上、降下を妨げない魚道の整備
- 環境学習や地域交流 など



魚道の整備（栄区）



水辺の楽校協議会（緑区）

4 指針に記載する主な内容



横浜市

(2) 現状の把握・分析

主な視点	現状把握・分析の項目例
市民利用	利用状況、水辺愛護会の活動状況、イベント開催状況 など
生物	動物、鳥類、昆虫類、魚類、植物等の生息・生育・繁殖状況 など
水質・水量	水のきれいさ、水の量や流れ など
施設	施設の健全性、経過年数 など
景観	まちとの連続性、歴史的資源や良好な自然景観 など

4 指針に記載する主な内容



横浜市

(3) 保全・創出の方向性と主な取組

保全・創出の方向性	主な取組
「快適」 誰もが過ごしやすい	<ul style="list-style-type: none">子どもを含む地域とのワークショップの開催ユニバーサルデザインへの配慮 など
「オープン」 多様な形で関われる	<ul style="list-style-type: none">水辺愛護会など市民協働の活性化公民連携の導入検討 など
「ネイチャーポジティブ」 自然再興に貢献する	<ul style="list-style-type: none">生物に配慮した水際の保全瀬や淵、魚道の整備 など

4 指針に記載する主な内容



横浜市

(4) 保全・創出に向けて考慮すべき事項

- ・維持管理の容易性
- ・利用者の安全性
- ・周辺環境や歴史・文化との調和
- ・河川水辺拠点ごとの特徴や利用状況等に応じた機能の最適化 など



維持管理の容易性（擬木柵）（戸塚区）



歴史的建造物（杉沢堰）の保存（緑区）

5 今後のスケジュール（案）



横浜市

令和7年12月（4定）	横浜市河川水辺環境の保全・創出に関する指針 素案
令和7年12月	市民意見募集
令和8年2月（1定）	横浜市河川水辺環境の保全・創出に関する指針 原案
令和8年3月	横浜市河川水辺環境の保全・創出に関する指針 策定・公表